この文書はプリンタで印刷して、印刷した文書を読みながらサンプルを操作することをお勧めします。

◆以下に、silentinputを使ってWord文書からHTMLを生成する方法を示します。

　今回のサンプルは、特許庁が配布するインターネット出願ソフトのひな形として収録されている、ハンドスキャナの特許出願原稿データを適宜改変して使わせていただきました。

①この文書の保存されているフォルダと同じフォルダにある、「HTML生成用サンプル.docx」を開きます。

　この文書には、ハンドスキャナの特許出願原稿データが入力されています。文書をスクロールさせ、以下の事項を確認しておきます。

・【００１２】の「受光光量ＩC12」の部分には、下線と下付き文字が付されています。

・【００１３】には、【数１】の欄があります。

・【００１４】には、【表１】の欄があります。

・【書類名】図面はこのサンプルには含まれていませんが、【図面の簡単な説明】には、【図１】と【図２】の欄があります。

②開かれたサンプル文書にsilentinputのテンプレート（pdSI.dot）を適用します。具体的には、[Ctrl]＋[Alt]＋[F11]（又は [Ctrl]＋[Alt]＋[\]）を押して、メニューからpdSI.dotmを選択します。

③[Alt]＋[J] のメニューから、特殊機能→エクスプローラを起動 を選択します。HTML生成用サンプル.docxが保存されているフォルダが、Windowsエクスプローラで表示されます。このフォルダには「図」「数」「表」の３つのフォルダが作られており、それぞれに、【図１】【図２】の２つのイメージファイル、【数１】のイメージファイル、【表１】のイメージファイルが予め保存されています。これらのイメージファイルを、HTMLでリンクさせることになります。

　各フォルダの画像ファイルを適当に確認し、Windowsエクスプローラを閉じます。

④「HTML生成用サンプル.docx」に戻り、[Alt]＋[J]を押してツール群を選択し、ツール群ダイアログを表示します。ツール群ダイアログは、[Ctrl]＋[Alt]＋[Shift]＋[J] でも表示させることができます。

　そして、「新規文書」タブの「HTML生成」をクリックします。

⑤ファイル名を問い合わせるダイアログが現れます。デフォルトでは、元となるWord文書のファイル名に「\_html.htm」を付加したファイル名（今回は、HTML生成サンプル\_html.htm）が入力されています。とりあえず、そのままOKをクリックします。

⑥「【図面の簡単な説明】から図面HTMLを生成して組み込みますか？」という問合せがされます。この問合せは、silentinputがWord文書から「【図面の簡単な説明】」を検出できた一方で、「【書類名】図面」を検出できないときに行われます。今回の例では「はい」を選択します。すると、silentinputは、【図面の簡単な説明】に基づいて【書類名】図面のHTMLを自動生成し、出力HTMLに追加的に組み込んでくれます。

⑦「文書内容から【図○】を検出しました。イメージHTMLタグを挿入しますか？」という問合せがされます。ここでは「はい」を選択します。

ファイルを選択するダイアログが現れます。このダイアログでは、Word文書が保存されているフォルダの内容が最初に表示されます。今回は、このフォルダの直下にある「図」「数」「表」のフォルダが表示されます。

ここでは【図○】ですので、「図」のフォルダをダブルクリックして開き、2つの画像ファイルのうちどれかをダブルクリックして指定します（２つのうちどちらを指定してもＯＫです）。

⑧イメージの連続貼付けの設定(Html生成)のダイアログが現れます。イメージの貼付け順が「ファイルから生成した番号順」になっており、挿入される番号の生成方法が「ファイル名から生成した番号を挿入する」となっていることを確認し、「貼付け実行」をクリックします。これで、「図」フォルダの２つの画像ファイルを番号順で【図１】、【図２】に指定できたことになります。

⑨「文書内容から【数○】を検出しました。イメージHTMLタグを挿入しますか？」という問合せがされます。「はい」を選択します。今度は【数○】ですので、「数」のフォルダを開き、画像ファイルをダブルクリックして指定します。イメージの連続貼付けの設定(Html生成)のダイアログでは、そのまま「貼付け実行」をクリックします。これで、「数」フォルダの画像ファイルを【数１】に指定できたことになります。

⑩「文書内容から【表○】を検出しました。イメージHTMLタグを挿入しますか？」という問合せがされます。「はい」を選択します。今度は【表○】ですので、「表」のフォルダを開き、画像ファイルをダブルクリックして指定します。イメージの連続貼付けの設定(Html生成)のダイアログでは、そのまま「貼付け実行」をクリックします。これで、「表」フォルダの画像ファイルを【表１】に指定できたことになります。

⑪ HTMLファイルが作成されます。HTMLファイルは、Word文書が保存されているフォルダに、⑤のダイアログで指定した名前で保存されます。

⑫「HTMLファイルを生成しました。実際に閲覧しますか？」という問合せがされますので、「はい」を選択します。ブラウザが起動して、保存されたHTMLを閲覧できます。

　HTML文書をスクロールさせ、以下の事項を確認します。

・【００１２】の部分に、下線と下付き文字が設定されている。

・【数１】や【表１】の部分に、イメージが組み込まれている。

・【書類名】図面 が追加されており、その【図１】と【図２】の部分にイメージが組み込まれている。

⑬ブラウザのメニューから、表示 → ソース （又は、ページ → ソースの表示）と選択してみてください。silentinputが生成したHTMLソースを閲覧できます。適切なHTMLコードが作られているのを確認し、テキストエディタを閉じます。

⑭以上で、HTML生成サンプルの説明は終わりです。ブラウザ及びサンプルのWord文書を閉じてしまって結構です。